

電響社

都内で新製品商談会

AI翻訳機など注目を集める

電響社が来年春夏を見据えて、グループ3社共催による家電や雑貨の新製品を紹介する「2020ニューライフ商談会」を東京流通センター(東京都大田区)で今日14日まで開催している。家電量販店やホームセンター、通販業者のバイヤーなどを中心に新製品を提案し、拡販につなげていく構えだ。



AI翻訳機「ランゴゴ」はひととき注目を集めた



シー・シー・ピーは900gの軽量スティック掃除機を提案

家電関係60社、雑貨関係50社が出展した今回の商談会は、2日間、翻訳機「ランゴゴ」で183社・480人の来場を見込み、初日から各コーナーは盛況。特に注目を集めたのはAI(人工知能)翻訳機「ランゴゴ」だ。力国の言語に対応するだけでなく、オフラインでも英語、中国語、日本語、韓国語の主要4言語の翻訳に使える。一つの翻訳ボタン

を押すだけという簡単操作に加え、翻訳スピードは1秒以内と実環境での使い勝手も良い。オフラインで使えることから「インバウンド需要を見込んだ土産物店などに使ってもらいたい」(電響社)と意気込む。税別2万8千円で、年間2万台の販売を目指す。

電響社の自社ブランド「ゼピール」は、テールや脱衣所の棚などにクリップで止められるDCクリップ扇風機「k.o.c.a.z.e」のほか、今夏に販売が急拡大したハンディファンを提案。ハンディファンは、ルーペ付きにすることでファンを

使用しながら手元の文字を確認しやすくし、シニア層への提案力を高めた。ファンのないタイプも参考出品するなど、子会社のアピックスインターナショナル(大阪市浪速区)でも、デザインや付加機能など送風以外の付加価値を加えた様々なハンディファンを紹介し、訪れたバイヤーの関心を集めていた。

ロア・インターナショナル(東京都新宿区)は、USBスリムヒーター「INKO」を提案。インクで温めるヒーターで、厚さ1ミリで折り畳んで持ち運びが簡単なのが特徴だ。USB給電の充電器を接続し、椅子の上や肘の下などに敷いて温めることができる。

シー・シー・ピー(東京都台東区)は、重さわずか900gの充電式スティック掃除機を紹介。軽さを追求しながらも吸引力を高めており、掃除機としての性能にも妥協していない点を説明した。

エムケー精工(長野県千曲市)は、切り餅を使って多彩な調理ができる「もちブレンド」を訴求した。たこ焼き風などを実演してバイヤーに試食してもらい、餅を使って調理

の幅を広げる提案を行った。

今回の商談会では、携帯型蓄電池などの防災関連製品も目立った。近年の自然災害を受けて防災意識の高まりが商談会にも反映されており、防災関連製品の提案コーナーも各所でにぎわっていた。

めており、掃除機としての性能にも妥協していない点を説明した。

エムケー精工(長野県千曲市)は、切り餅を使って多彩な調理ができる「もちブレンド」を訴求した。たこ焼き風などを実演してバイヤーに試食してもらい、餅を使って調理の幅を広げる提案を行った。

今回の商談会では、携帯型蓄電池などの防災関連製品も目立った。近年の自然災害を受けて防災意識の高まりが商談会にも反映されており、防災関連製品の提案コーナーも各所でにぎわっていた。